

## 第6回 中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

### ○ 日 時

平成25年5月16日(木) 午後3時～午後5時

### ○ 場 所

中野市豊田支所大会議室

### ○ 出席者

#### 【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、北澤逸雄委員、上原一雄委員、下川昌平委員、永池隆委員、宮入靖委員、山岸洋子委員、市川大輔委員、太田智明委員、小林健一委員、伊藤勇委員、酒井美智子委員、湯本美奈子委員、浅野光政委員、竹内久雄委員、中島武久委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、古川今朝治委員、湯本一委員

#### 【市】

小林教育次長、荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、富田主査、渡辺主事補

### ○ 会議内容

#### ●開会に先立ち、教育委員長及び教育長の紹介とあいさつ

事務局；みなさんこんにちは、本日は大変お忙しい中、ご出席を頂きましてありがとうございます。審議会の開会に先立ちまして、教育委員会で異動がありましたので新教育委員長及び教育長の紹介とあいさつをさせて頂きたいと思います。申し遅れましたが、私この四月からこの審議会の事務局を担当いたします教育次長の小林悟志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。なお、中野市は五月一日から十月末日までの間、クールビズを実施しておりますので、このような格好で失礼をさせて頂きますが、委員の皆様も背広等を脱いで頂いて、楽な形でお願いしたいと思います。それでは、教育委員会の新委員長及び教育長を紹介させて頂きます。新たに委員長には、市村尚人教育委員が、教育長には小嶋隆徳教育委員がそれぞれ就任をいたしました。それでははじめに市村新委員長よりご挨拶を申し上げます。

市村委員長；就任のご挨拶を申し上げます。教育委員長に就任いたしました市村尚人です。どうかよろしくお願いいたします。皆様方には昨年度から、そして今年度よろしくまたお願いいたします。簡単ではございますがごあいさつにかえさせていただきます。

事務局；続きまして小嶋教育長よりご挨拶を申し上げます。

小嶋教育長；皆さんこんにちは。この四月一日より教育長に就任しました小嶋隆徳と申します。よろしく申し上げます。今、委員長の方から申しましたように、昨年度からまた、今年も委員さん方にはご審議を十分尽くして頂くということで、なにぶんよろしくお願ひしたいと思ひます。尚、この審議会の委員の皆さんの中で、ご辞退を申し出された方、またご異動等がありまして四名の方に今日ご委嘱を申し上げたいと、このように思っております。よろしくお願ひします。

事務局；それではここで新たに審議会委員にお願ひいたしました皆様に教育長から委嘱状を交付させていただきます。新たに委員になられる方からお名前を申し上げますので、その場でお立ち願ひたいと思ひます。

小嶋教育長から委嘱状を永池隆委員、浅野光政委員、竹内久雄委員、中島武久委員にそれぞれ手渡した。

事務局；新たに委員になられました皆様よろしくお願ひいたします。尚、新たに委員になられました皆様方には、これまでの審議経過並びに資料について事務局担当よりお渡ししてあります事を申し添えさせていただきます。それではこれで委嘱状の交付を終わらせていただきます。ここで委員長及び教育長は退席をさせていただきますが、よろしくお願ひいたします。

柴垣委員；ちょっと質問なんですけどいいですか。今の委嘱について。

事務局；時間もありますので簡潔にお願ひいたします。

柴垣委員；前回、地区の代表者三人が地区の任期の終了の時に代わってしまうのは主旨としてふさわしくないということで、三月末の地区の任期があってもやめないで、この審議会の任期まではやっていただけの方をお願ひして頂きたいというふうに、事務局に確認だったと思うのですが。そのような依頼になっているのですか。

事務局；事務局からお答え申し上げます、それぞれ前回の会議等でご意見等頂きまして、教育委員会としては、それぞれの任期中お願ひをしたいとのことで再三お願ひをしましたが、諸事情によりましてご辞退をされたということで、改めてそれぞれ推薦を頂いた方にそのようにお願ひをしてきたところでございますので、よろしくお願ひ申しあげます。

柴垣委員；今度はこのようなことが二度とないようにするとういうことになっていると思うのですが。そういう確認は大丈夫なのでしょうか。

事務局；こちらの方ではそれぞれの任期をお願いを申しあげたということですので、ご理解をよろしくお願いいたします。

柴垣委員；その確認だと違うと思います。そういうことがないように今回留意するというふうに前回言ったと思うんですけども。

事務局；今回、新たに委員にご委嘱を申し上げさせて頂きましたが、それぞれの任期の期間中ご就任をお願いしたいとのことでこれからも要請をしていきたいと思しますので、よろしくをお願いいたします。

会長；会長としてちょっと確認は、今の浅野さん竹内さん中島さん三人の委員の方の任期ですね。前回、意見が出たのも私承知しておりますけれども。この審議会の任期期間中任を務めてもらいたいという意見が出ました。それでお引き受けて頂いてるのかどうかだけはっきり。

事務局；先ほど委嘱状で申し上げましたとおり、任期についてはそれぞれ皆さんと同じ任期までをお願いしてございます。

会長；そうですね。それで了解も頂いてる？

事務局；条例上は特に審議委員の辞職についての規定は特に定めてございませんので、諸事情があれば代わるかと思いますが、一応要請はしてありますのでそんなことでよろしく願いいたします。

事務局；それではこれより審議会の方を始めさせて頂きたいと思しますので、進行の方を副会長さんの方をお願いしたいと思しますので、よろしく願いいたします。

副会長；どうもみなさんこんにちは。副会長の清水正と申します。それでは第六回になりますけれども、中野市小学校及び中学校適正規模等審議会を開催したいと思します。初めに会議の成立についてご報告をしたいと思します。条例の適正規模審議会条例第六条二項に審議会の委員の過半数が出席しなければならない。と規定されております。本日は25名中3名の方が欠席の連絡を頂きまして22名です。伊藤さんのところが空席になっておりますが、連絡ありませんのでおっってお見えになるのではないかと思

われます。会議は成立しますのでこれから始めさせて頂きたいと思います。初めに小島会長の方から開会のご挨拶と皆様へのご挨拶と本日の審議内容、進め方等についても含めて、小島会長の方からお願いしたいと思います。

会長；みなさんこんにちは。新しいメンバーも加わりましたので、改めてご挨拶を申し上げます。会長を引き受けております。小島と申します。信州大学教育学部で教員をやっております、中野市の住民ではないんですけれども、大変な厳しいことをお引き受けして、一年間、去年この審議会で、一年間というのは違いますね、去年後半審議会を会長として任されましたが、今年度二年目ということで、やや審議を加速して、実質的な議論を今年度やらなければいけないというように思っておりますので、よろしくご協力ください。お願いいたします。それでは、会議事項ということで、今日の六回目の審議会をスタートさせて頂こうと思います。座って進めさせて頂きます。お手元の資料をご覧ください。確認です。今日の次第が三番、会議事項というところで1、2とあります。前回、昨年度末、第2回目のグループ討議を行いまして、新年度になりましたら、やや具体的な内容に焦点を当てて、絞ってこの審議会を進めていくということで、一回目の今回、第六回目は市内の小学校における教育の現状についてという具体的な話題提供を市内の二校の先生にお願いしようということで、依頼させて頂きました。で今日、大規模校及び小規模校と次第にはなっておりますけれども、比較的大きな規模の学校とそれから比較的小さな規模の学校ということで、平岡小、日野小の委員の先生方から、具体的な教育の現状の話題提供をお願いします。つまり前回、前々前回ですかね、各学校のグランドデザインということで学校現場の大きな骨格でしょうか、学校運営や教育活動の紹介はして頂いたんですけども、もっと具体的な教育内容について知りたいという希望もございましたので、今日お願いしたいと思います。それで、二番目その他ということになっておりますが、今日のメインはこの学校の教育の現状についてという話題提供です。進め方としましては、最初に平岡小の方から発表頂いて、その発表内容についてすぐに質問とかやりとりを10分程度行います。そしてその後、日野小の方から続いて発表頂きます。やはり、その発表の後、すぐに質疑応答をやりたいと思います。それが終わった後、どのくらい時間が残るかちょっと考えなきゃいけないんですけど、30分程度全体でやりとりができればいいかなと思います。前回までは机を崩してグループになりましたけれども、今回はこの形のまま進めさせて頂きますので、進行にご協力よろしくお願いいたします。それでは早速。

古川委員；会長、一言ね。そのいろいろなところで言ってる適正規模というのは一体何を指して言ってる。これ小島会長、所信を、手短で。

会長；あの、今日それを手短かに所信を表明するだけの準備はしておりませんので、古川委員今回の審議会、それからおそらく今日、提案させていただきますけども、七月にもう一回やるんですね、それが終わったところで、さていよいよ本命だよってところで、初心とはいかないまでも、我々のなすべきこと、議論、ここでやるべきことはこうだろうということ、お話をさせて頂こうと思います。もうしばらくお待ちください。ぐるぐるまわってるつもりはないんですけれども、ベースになるような意見や実際的情報を我々も共通理解したいということで、ちょっと時間かけてますけども。よろしいですか。それでは、今、私の時計で3時15分です。平岡小の方からどのくらい時間があれば。

上原委員；15分から20分あれば。

会長；両方で20分あれば。そうすると・平岡小の方で、今回はどうでしょう。15分程度と言うことで。

上原委員；すいません。進め方のことなんですけども、テーマを頂きましてね、実は第三回の際にも同じメンバーで、グランドデザインについてお話をさせて頂きました。確かにその時には、具体的内容について踏み込んだ話にはならなかったなあということは思っておりますけれども。二回のグループ討議を聞かせて頂いて、これからの審議を焦点化していくことが大事かなと思いますので、日野小と平岡小にこだわらずに、今日のテーマについてお話をさせて頂きたいなど、そういうふうに思っておるんですが。

会長；それぞれ二校の具体的な教育活動のご紹介のなかに踏まえて頂くということで。

上原委員；それにも触れさせていただきながら、理由はいくつかあるんですけれども、例えば、授業形態ですとか、学習内容ですとか、組織のあり方ですとか、そういうことをお互いに話しても、そんなに相違がでてこない、というふうに判断させて頂いて、もう少し広い範囲で中野市内の小学校の大きいところと小さいところはどういう特徴があるのかということに、少し広げて触れさせて頂きたいなど。よろしいでしょうか。

会長；私、個人的には全然問題ないというか、その方がいいかなと、あの今日仮に、私の学校が。こっちの学校がっていう話題提供して頂いても、その個別の具体的なお話から広めていくっていうやり方をせざるをえないだろうと思ってましたので、上原委員の用意していただいている内容、話の進め方で結構だと思いますが、他の委員の方もよろしいですか。これでおそらく、用意して頂いてますので。じゃあそういう訳で、

二校あわせて、20分で、その後、自由にやりとりをして頂くということで、了解しました。ではお願いいたします。

上原委員；よろしくをお願いいたします。今ちょっと申し上げましたとおり二回のグループ討議の中で大変有意義なご指摘やご意見を伺ってきたなと思っていますが、私自身はその中で、一つは、この適正規模がどういう形になるか考えていくにあたって、共有的ニーズとといいますか、保護者の皆様が求めている、こういう教育になって欲しい、あるいは、こういう子どもを育てて欲しい。そこのところにひとつは大事な視点があると思いました。もうひとつは、地域における学校の存在とといいますか、地域コミュニティの中の学校の位置付けってということから学校のあり方を考えていく。そういう視点があるように思いました。なおかつ、今の問題点だけではなくて、どういう形になろうが、統合しようが存続させようが、その後でどういう学校を作っていきたいかということまで含めて、考えていかなければならないだろうと、そういういくつかの課題に向けた有意義なグループ討議があったかなというふうに思いました。そこであの今回大規模校小規模校における学校教育の現状について具体的な内容を提供して欲しいという依頼を受けたんですけども、先ほどちょっと話しましたように、第3回の時に日野小、豊井小、平岡小、当時は中野小学校のランドデザインで、目指す子ども像を中心に話をさせて頂きましたが、その為の手立てとして、各学校少し触れさせて頂きました。今日、二番煎じになってはいけないなということを思いましたので、そこに資料の表紙に出したように、いわゆる大規模校、小規模校をやや比較する形で、メリット、デメリットに触れるような形でお話をさせて頂いた方が、これから審議を焦点化し深めて頂くためにはいいのかなというふうに考えておりますので、よろしく願いしたいと思います。で、山岸先生とも相談をしまして、個別の日野小のあり方、平岡小のあり方ではなくて、中野市内の大きな学校と小さな学校をちょっと比較してみると、というような視点から今日、組み立てさせて頂きたいというふうに思っています。で、資料を三つ用意しましたが、最初の資料1、2を山岸先生の方から、最初にお話しを頂いて、3、4、5を私の方で触れさせて頂きたいなど、こんなふうに進めさせて頂きます。下にグラフを書いたのは、ごくごく一般的に適正規模っていわれてる、学級数で言われてるところからすると中野小は大規模校にあたります、平野小は唯一適正規模範囲内と言われてます。平岡小以下は小規模校であります。ただしこれは学級数の話であって、今度、学級内の定員といいいますか。10人のクラスと、20人30人のクラスではやっぱりまた違うわけで、そういうことがあれば、これからきっと議論のなかでいろいろ触れて頂くんじゃないかと思いますが。そんなことで、平岡小と日野小共に小規模校でありますので、先ほどのような組み立てにしたいというふうに思います。それでは、前置きが長くなりましたけれども、初めに資料1、2に触れまして山岸先生の方から話を頂きます。

山岸委員；よろしくお願ひします。文科省が例示した学校規模によるメリット、デメリットを参考にして私の今までの経験や日野小学校に絡めてお話をさせて頂きたいと思ひます。よくデメリットの解消に目が向くというのは当然なんです、一校長として考えた時に、メリットを最大限に生かすということをして視点において学校運営しているということも事実でございます。あくまで文科省の一般論をベースにしてのことですので、ここでの話が中野市にあてはまるかいなかではなくお聞き頂ければというふうに思ひます。まず学校の様子に分かればと思ひまして、最近撮った写真を持って参りました。本校の中庭でございます。みんな一輪車に乗っております。学年はみんな違ひます。こんなような生活がございます。これは特別支援学級の子供達が自分達で育てたトマトをクッキーにして地域に販売活動をしている。こんなような様子です。二年生と五年生が一緒になって給食をとっている。お花見給食の様子です。どんな小さな賞でもなにか賞をとってきたら全校の前で表彰しよう。こんなようなこともやっております。これは一年生が入学した時に、二年生が歓迎をしてくれた時の様子です。それでは、まず、小規模に伴うメリット、デメリットというところをご覧ください。番号がふつてございます。メリット1のところ目が届きやすくきめこまかな指導がおこないやすい。学校規模により教員の数も決められていますので、大きな差はないと申しますかあつてはならないと思ひておりますが、しかしながら、例えば本校の場合、一年から六年まで11人、15人、15人、17人、24人、26人、来年になって、ちょっと復活して20人となるんですけども、35人学級でやっている、授業と比べると明らかに手は入ります、本校の場合でいうと全職員で全児童を育てるといふ基本姿勢からも、何年の誰がこんな場面で苦勞しているとか、彼はこんな力をつけているということをして、日常的に共有をしています。前回発表させて頂いたグランドデザインにあるワンエキス事業もその効果をあげてきています。これはその国語で辞書を使っている場面でございます。こちらの写真は、理科の一実験の写真であります。このことが確かな学力につながっているという検証も進めているところでありますが、大きなメリットになるかというふうに思ひます。

メリット②のところ、一人ひとりの活動の機会を設定しやすい。設定できるということは、評価もできる。つまり、褒めたり励ましたりできるということでもあります。褒め、励ましの中で確かに子供たちは成長いたします。

これはひとつ、チャレンジ学習の場面です。プラスアルファの学習に子供たちは飛び込んで行っております。もちろん、児童会活動でも一人一役ということを出して責任を持てる場面も設定できる。これもメリットとなります。

⑥番のところ、全職員の意思疎通が図りやすい。本校の場合を例に挙げて恐縮ですが、学力向上のための職員研修を毎回職員会議で行っております。これはその様子ですけども、単級である学校では教科を軸にした学力向上に目を向けるべきだというふうに考えています。

学級が独自のことを閉鎖的にやっていたのでは、学力がつかないからです。事あるごとに職員が顔を合わせながら方向を確認し合う、これは非常に大きなメリットだというふうに考えております。

メリット⑧施設・設備の利用です。特に体育館、プール、校庭はふんだんに利用できるというメリットがあります。また、ALT、外国語学習の教員なのですが、来校時には毎回、全学級が指導を受けることができます。非常に英語のコミュニケーションを子どもたちは楽しみにしています。

メリット⑨保護者・地域との連携。私も昨年度どのくらいの方に本校お世話になったかなということ洗い出してみました。教科学習では児童の作品をこれを4会場、間山温泉、晋平記念館、市内のギャラリー、観光センターで展示させていただきました。それから児童の発表を福祉施設や病院、公民館、保育園等、こんな活動もできました。今年も間山温泉に1年、3年、5年の作品を展示しているところでありますが、2週間後には、2年、4年、6年の作品展示を計画しております。全校児童の作品が展示できる、つまり事業の成果を確認できるということに限らず、地域の方々が応援団になっていただける。イコール、児童の自信になってくる。この他にも国語では書道家の方、社会では地域の歴史、総合的学習では米作り・米の収穫、耕作、しめ縄づくり、音楽では声楽家の方の支援、交通安全教室の支援、等々、多岐に渡り連携を取ることができます。本年度はクラブ活動もご支援いただくことになり、ものづくりや料理、陶芸や手芸など、地域の方に入っていただくという活動がメリットになっております。家庭学習においても南宮中学校ブロック、本校では4校がそこに属するわけですが、9年間見通した家庭学習の構築を今、しております。特に保護者の方々の力を得たいところ、得やすいというところに取り組んでおります。

デメリットの方をご覧ください。③教育活動が制約されるというところでもあります。極めて部分的なことからお話し申し上げますと、例えば運動会で1年生の玉入れはちつとも玉入れにならないと地域の方々に応援をいただいてやっている。あるいは、組み体操といってもどうも迫力がない、この人数ではできないので高学年全員で組み体操をやらなければいけない。などというようなことも現実的には出てきております。デメリット⑤のところ。グループ学習や習熟度別学習、専科教員による指導ができていくというところでもあります。①とも関連するところでもありますけれども、多様な考えに触れながら育つ面はもちろんたくさんあります。そういった意味でまた、専門性ということを考えると小学校の場合、教員配当は6学級以上で専科1人ということになっております。日野小学校の場合でいくと、8学級ありますので音楽の専科が今いるというような状況です。これで、例えば理科に専科が欲しいなということになると14学級でなければ配当がありません。そういった意味では理科の授業など専門的な教諭が欲しいなということはもちろんございます。

したがって、メリット中で話をさせていただいたように小規模校では教科の専門性を



大切にした研修を重ねているということにもつながっているというふうに考えております。しかし、1小学校に全ての教科に専門性を持った教諭が配当されるというわけではありません。中学校においての④の方が深刻ではないかなというふうに考えております。

デメリットの⑦クラス替えが困難だということ。なぜ、クラス替えが必要かということを見ると、①の多様な考えをもつ人間関係に触れる中で、視野を広めたり生き方を深めることができる。というふうに考えます。小規模のところでは異学年交流や担任を変えるということなどで対応しておりますけれども、6年間同じ集団で過ごさなければならないということが変えることはできないでメリットでございます。

デメリットの⑬複数の公務分掌。これは当然、学校として教育活動は同じであるため、複数の公務分掌を少人数で受けもたなければならないということは、出てくるわけなんです。それに伴って、例えば研修の出張などという場合でも、校長、教頭が事業にかかわってもなかなか融通が利かなくなる場面も出てくることも事実です。

デメリットの⑯PTA活動の負担ということです。本校でも本年度から規約改正を行ってひとつの委員会を他の委員会に踏襲をいたしました。少なくなれば少なくなった活動でやっていけばいいことなんですけれども、例えば資源回収やPTA作業など今までと同じ活動をやろうとすると厳しい状況はあることは確かです。

次に大規模校に伴うメリット、デメリットというところであります。

これは、今まで申し上げてきた小規模におけるメリット、デメリットと裏腹な部分がありますのでそれを踏まえていくつかピックアップをしたいと思います。

メリットの④のところ。多様な学習形態がとれる。

例えば小学校においても教科担任制の学びができる。こういうことがあります。

実際、中学校進級に向けてスムーズな移行ができるために、専門性をもつために、5年生、6年生の教科担任制を導入したという経験があります。実は中学校の教頭から小学校の教頭に転任した時にある学級担任から中学校のペースでちょっと授業をやってくれないか、ということをお願いしました。それがきっかけでその学校では5・6年生を教科担任制をとったわけですけれども、非常に充実したものになったなということを感じております。

メリットの⑬一人ひとりにかかる経費が小さくなりやすいというところです。

一概に大規模、小規模とはいえないというふうに思う訳ですが、修学旅行にかかった経費などを見させていただくと、やはり大小の差がでてきているかなと思います。

最後に毎年、本校には中野小学校の1年生が遠足で本校の校庭に立ち寄ります。本校の全児童数より多い人数であります。校庭を見ていると、いろんな遊びをするなというふうに見ておりました。すると、校長先生、どんぐり拾ってもいいですか、というふうに私に尋ねてまいりました。同じ中野市でもちょっとした違いを垣間見た思いがいたしました。大規模学校から今年、転任してきた先生が先ほどの間山温泉の展示を

見て、こんな素敵なことができるんですね。とつぶやいていただいたことに嬉しさをもったことも事実です。本当にそれぞれに思うところがあるんだなという現実の中で今、メリット、デメリット等をお話しさせていただきました。  
以上です。

上原委員；それでは続けさせていただきます。

今、資料2の方は触れていただけませんでしたけども、これは平成20年の時に中野市の教育委員会が教育委員会だよりも、当時の校長・教頭から、自分の経験から大規模校・小規模校のメリット、デメリットをまとめたらどういうことになるかということで資料を作っていたものがあります。今、山岸先生のお話の中と通じる部分がたくさんあるように思いますが、そういう点でならべて資料を用意してみました。

上原委員；それでは先へ進めさせていただきますけども、私の方は資料3のことに触れさせていただきます。

その前に、私のところで昨日職員会議があったのですが、春の遠足の反省の場面がありました。私の学校は単級の学年と2クラスある学年が両方あるんですけども、遠足の反省をする中で、単級の担任の先生から一人だけで下見に行くのはとっても不安だと、あるいはやりづらかったというような意見が出ました。そんな細かいところにも、2人で下見に行って危険箇所から、より楽しい活動ができる場所を検討して来ると、一人だけで責任をもって見てくるのでは違いがあるんだなあとということを感じさせていただきました。

上原委員；それでは資料3の方に移りますけども、これは、ある校長会の時に、高社中ブロックと豊田中ブロックの小学校の校長が自分の学校の課題は何なのか、それに対してどんな解決の方策を考えているか、ということを検討し合ったことがありました。その時の私のメモであります。ですから、この資料3につきましては私のメモでありますので、文面について分析はすべて私にあって、あまり表立ってもいけないかなと思うのですが、このような検討をしたことがありましたので、今日のテーマには大変つながるかなと思いますのであげさせていただきました。

これは、課題ということであげありますので、今、山岸先生がおっしゃった、メリットの部分をどう生かすかということがやや薄くなっています。ですので何か高社中ブロック、豊田中ブロックが共通してこういう問題点がたくさんあるというふうに読み取っていただかないで、問題点を解決するにはどうしたらいいかという論点で話し合った内容です。

まず、学力と体力に関わってでありますけれども、実は学力については、一人ひとりきめ細かな指導ができると先ほどメリットにありましたように、学力調査や検査の結

果が概ね良好に出ます。小さい学校の方が良好に出ます。恥ずかしながら、この中では平岡小学校が一番悪かったかもしれませんが、やはり、一人ひとりにきめ細かな指導ができています。ただし、小規模の学校になりますと、学年の波がありまして、あるいは学年の特徴がありまして、ここにもありますように、学年差、学級差が出てくるということでもあります。ですので、比較的小さな学校が集まったこのブロックの中ではその学級の特徴をよくつかんで、子どもたちの特徴をよくつかんで、そして指導の手立てを考えていく。これが子どもたちの学力を保障していくのに大事な課題になる。こういうことが話し合われています。

もうひとつは、きめ細かな指導ができるということは、逆に先生の手がよく入るわけですから子どもたちは先生との関係の中で安心して学習できるわけです。そうするとやや受け身的になってくる。学習を通して受け身的、受動的な姿勢になってきて、いや先生ってこう、押しのけてでも自己主張していくとか、他の子どもとも議論していくとかという、そういう活発なといいますかたくましさといいますか、そういうものがなかなか生まれにくいなあということがあります。しかし、その中で私たちは子どもたちのコミュニケーション能力、最近の言葉で言うと言語活動の充実を目指しながら、子どもたちが自分の考えを自ら鍛えていくと、書いたり話したり読んだり聞いたりする、そういう活動の中で鍛えていく、こういう場面もうまく〇〇していくわけです。

それから、体力の問題であります。これは、たまたまかもしれませんが。小規模校だからといってそこにつなげていか分かりませんが、体力不足についてはどの学校からも指摘されます。それから運動にかける時間の二極化といいますか、うんと運動する子とほとんどしない子の差がある。そういう話題になります。どう小規模の学校で体力づくりや遊びを充実させるのかというのをどの学校も抱えている課題であります。そのためには全校活動的な場面を大事にしながら体力づくりを工夫しているというような現状であります。

続いて、生徒指導に関わってという2番でありますけれども、やはり小規模校や小規模集団の中で育つものと育ちにくいもの、ということが話題になります。全校の子どもが名前をちゃんと言えとか、非常に家庭的な雰囲気がいいとか、そういう良さがある反面、小集団でありますので、もし人間関係でこじれたことが起きた時にはなかなか修復できない、生徒指導上の問題につながってしまう、ということもあるという指摘がありました。そのために小集団であっても互いに認め合い、そして良さも見つけ合って助け合う、そういう学級づくりや集団の雰囲気を作っていくことが課題であります。

それから、どの学校にも共通していえることは、実は大きな問題がない、とても落ち着いた、温かい雰囲気だ。これはやはり良さなんだと思います。その中で子どもたちが大きくなって大きな集団に行った時に大丈夫かしらとか、学区内に行った時

に社会のルールをちゃんと身につけているかしらとか、そういうことが担任の方から話題に上ってくるということがあります。その分、子どもたちが経験、体験をしながら学んでいくことなのかもしれませんけれども、できるだけ子どもたちの生活に則して具体的に、こういう時にはどう判断していけばいいんだろう、そんなようなことを教えていく工夫が必要であるかなと思いますし、家庭との連携といいますか協力しながら進めていくことが大事な、ということをお話ししました。

先に進めますが、3番であります。

家庭教育に関わってというようなことで、非常に落ち着いて、あるいは3世代同居の家庭が多い、地域としては落ち着いているということから、もうひとつは学校への協力体制、協力の姿勢が非常に高く地域に大事にしている、そういうところの共通点があるように思いますけれども、話題になるのは子どもたちの生活習慣がどうだろうということ、あるいは読書量が少ないのかな、というようなことが話題になったことがあります。そこで、家庭学習の問題だとか早寝早起き朝ごはん運動ですとか、あるいは、メディアとの付き合い方ですとか、家庭読書ですとか、そのような取り組みがなされております。

続いて、地域に関わってでありますけれども、これも概ね各地域の方々が学校に協力を惜しまずに良くやってくさる、ありがたいところだ、という私どもの認識があるわけですが、協力を惜しまずやっていたらいいのでありがたいんですけども、地域の方の負担が大きくなっていることはないだろうか、自分たちがもう一回、全部頼っている部分がないだろうか考え直さなければならない、そのためには、ねらいを明確にして会合が有意義なものになるようにしていかなければならない、そんなことが必要だとしています。

それから、ここは小規模だからとても落ち着いていていいという、ありがたさだけでなく、そういう地域を作っていっていらっしゃる方々から学ぶといいますか、先人の知恵に学ぶ、努力に学んでいくということを学校も忘れてはならないだろうという、そんなようなことを確認し合っています。

一方で地域の教育力をもっと学校運営へ生かすためにサポーターバンク等を充実させて教科や総合的な学習などに一層、地域の方に入ってもらえばありがたいと思っております。

その他のところに行きますけれども、PTAの問題につきましては先ほど触れましたので、PTAの役の負担を軽減していくとか、活動自体をできる限りにしていく、見直していくそのことが考えられています。

教員配置の問題では、複式学級にならないようにする、あるいは専科が配当などにも出来るだけのことをしていく。今、長野県では信州こまやか教育プランの活用方法選択型配置事業というものを年間48億円程の事業費をつけて取り組んでいますので、それを主に活用できる部分は活用しながらやっていくというのですが、なかなかそれ

が、やはり人数割であったり、学級数割であったりする部分が、基準がそういうふうになっている部分ありますので、難しい部分があるわけですが、工夫していかなければならない。小さい学校になればなるほど、先生方の力を高めていくのに研修に、外に勉強に行きたくても、一人の先生が欠けてしまうと学校の中が回っていかない、そういう実情があつて、非常に難しさがあつたりします。2クラスありますと隣の先生が、いいよ、行っておいで、今日は2クラス一緒に授業するからといったことが出来るんですけども、単級だとなかなか難しい。

あとは、読ませていただきますが、グランド等の校地が広い、児童数が減少しても落ち葉ひろいから、草取りから、なかなか手が回らない、そういう状況がでてくる。

父母負担の問題ともかかわってくるのですが、小人数になってバスを利用すると割り勘ですので一人あたりの単価が高くなっていくことがあります。そういう時には行政にいろいろお願をしながらスクールバスなどの活用をさらに広げていくこと、あるいは父母負担を軽減していく工夫をしていくようなことが考えられてきます。

そんなことが校長先生たちの検討し合っている話題であります。

そんなことから学校の現状について少し想像していただけるかなと思いますが、最後のページは私がグループ討議の中で考えさせられたのんですけども、これは私たちが審議を深めていく時にひとつはやはり教育的ニーズ、切磋琢磨だとか、それから競争心だとか向上心だとか、そういう育てたい力にふれていくと、やっぱり教育的ニーズの問題になるだろうと思います。もうひとつは、一方で学校が地域に無くなるとなかなか活力が出てこない、地域づくりも難しくなっているだとか、あるいは、地域の力を使ってなんとか学校を盛り上げていくことはできないか、いろんなご指摘があつて、

これはやはり学校というものが地域の中で非常にひとつの拠点であり、またはコミュニティーの一員として位置づいてきた、そういうものを大事にさせていただくということだと思ふのですけども。これが相反してしまつてどっちかを選ばなければいけないって議論には是非してほしくないな、両方をすり合わせていって、何ができるのかということを考えていくことが大事かなということを私自身、ちょっと感じております。今までの審議会の議論の中でもちょっと出てきたことがありましたので、余計なことかもしれませんが触れさせていただきました。学校選択制はどうか、という話がありました。学校選択制と言うのは一般的に自由選択制、東京都が品川区がいち早く取り入れた自由選択制が大きく取り上げられていますけども、それだけではなくて小規模特認校制という制度があります。要するに学校選択を保護者の意向を踏まえて柔軟にしていこう、規制緩和していこうという流れの中で生まれてきたものであります。

小規模特認校制度というのは自然豊かで家庭的雰囲気のある学校を良しとする人はその趣旨に賛同して居住する市町村内から自由に小規模校を選ぶことができる。こういう制度であります。逆にそれぞれ学校の特色を比較して自分の子どもを行かせたい学校を

選ぶ、これが自由選択制となります。あるいは中野市でも一部ありますけども、隣接区域選択制というのがあって、学校と学校の境目のところはどっちかに行けるといのもあります。そういうものもひとつには教育的ニーズに応じてくる人と国の流れかなあと思うのですけども、それに関して最近、下にあるコミュニティ・スクールとか学校支援地域本部事業などが非常に注目されてきております。私は勉強不足かもしれませんが、学校選択制とかちょっと相反することになるのかなあと感じる部分もありますが、コミュニティ・スクールにしても学校支援地域本部事業にしても、学校は地域の中で子どもたちが育っていく、そういうものを前提にして取り組まれています。中身はそこに書いてある通りでありますけども、長野県内でもいくつかコミュニティ・スクールを導入したり学校支援地域本部事業に取り組んでいるところもあります。もうひとつは、これも審議会の中で触れられたことでありますが、小中一貫教育というのが非常に今注目されていて、これはいくつかのスタイルがあるんですけども下に代表的な3つのスタイルを挙げておきました。小中併設校スタイル、これはもう一体型といわれているものです。非常に小中で深い連携ができるといいますか、そういう形になります。それから小中隣接校、今ある校舎を使いながら一環教育に向けていくという、これはパターンとしては、ひとつの教育委員会にひとつの小学校、ひとつの中学校という町村等で取り入れられているパターンだと思いますが、これは相互に良さを勘案し合いながら進めていくことができる。それから3番目には少し緩やかな小中一貫でありますけども、連携といった方がいいかもしれませんが、そういうスタイルもあって、中野市内でも今、それぞれの小学校、中学校で集まって、ブロックごとに、この3番にあるような、連携ができないか、いろんな形で模索しています。その中身については当初に配られた各ブロックごとのパンフの中に盛り込まれていますのでご覧いただきたいと思います。こんな様なことがメリット・デメリットを克服していくひとつの手がかりになる、そんなふうを考えるわけありますので、ちょっと余計なことですが触れさせていただきました。以上であります、よろしく申し上げます。

会長；ありがとうございました。

お二人の委員の方、ありがとうございました。資料をたくさん用意していただいて、なかなかたくさん課題がまとめられているので、どこからどんな意見をお聞きすればいいのかわからないのですけれども、いかがでしょうか、お話しいただいた山岸委員の内容についてまず、質問、ご意見おありでしたら最初に出していただければと思いますが。

古川委員；山岸校長に、区長から直接聞いたのだが、地域との関係は大変いいが、時の区長は大変苦労している。これがどこまで続くか、非常に難しい問題で、ああいうことは元は

公民館活動でやっていた。それが、だんだんと学校の方へ行っている、これもちょっと問題だと思うのだけでも、それで、この間、長丘小学校へ視察に行った。調べたら生徒が幼稚園からずっと一緒だと、こういうわけだ。気心の知れた者が同じく学ぶと、非常に明るい面をしている。小規模の特徴だと思う。それで、今度は平野の方まで行ってみたら、がんと宅地化されている。あれは将来困ると思う。平野小学校そのものが破裂しちゃう。他は少子化して中心部は破裂すると、こういう嫌なパターンになってきている。それで、長丘の地域との関係を調べたら長嶺温泉へ小学校の2年かな、長嶺へ行って菖蒲湯のしきたりからそこら辺をきちんと教えと、こういう非常にいい雰囲気なんです。これは中野の特徴だなあ、そういう地域との関係がだんだん出来上がっていかないと本当のいい制度が出来上がらないところ思っている。今、山ノ内が北小学校の生徒は、東の方にびっちりいぼちやって、それに乗った行政も行政だけど、それで一気に問題となった。生徒というのは、あまねく十分な教育を受ける権利がある、それをしっかり踏まえておかないとこれは大きな問題になるので、この学校の規模の問題も、そろそろ大きな線が出さないと中野市がまた混乱する、それだけを小島委員に言うておく。そろそろ決断してくださいよ、会長。

会長；その話は先ほどお聞きしましたので責任をもって進めます。古川委員のご質問なりご意見なりはよろしいですか。

古川委員；地域との関係は、身をもって調べてきた。

会長；山岸委員、何か返されることはありますか。

山岸委員；先ほど、お話をさせていただいた、本校での地域との関係でありますけども、立ち上げの時には地域の方々から非常に意欲的に声をかけていただきました。それで先ほど上原先生の方から話があったようにしっかりと形にして動けるようにしていかないと、どこかで負担になるとか、そういうことが出てきてはいけないなと思っておりますが、今のところ非常にありがたいご支援をいただいているというのが現状です。

会長；すいません、立ち上げというのは、何の立ち上げですか。

山岸委員；最後の上原先生の説明でいくと、③に近いような活動になったと伺います。

会長；それを立ち上げていらっしゃる。

山岸委員；はい。

会長；ありがとうございました。他にいかがですか。

湯本委員；ちょっとお伺いしたいのですが、資料1の⑥番がございますね、全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。というメリットと、それから反対側に教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。という、この表裏の関係を説明をお願いしたいのですが。

山岸委員；小規模のメリットで言いますと、さあ、こんな事をやってみようかという時に、そうだね、これとこれを確認して、じゃあ進めてみようかというのが非常にコンパクトに、また、適宜、学校運営に関わってまわりやすくなるというんですかね、そういうことですね。

それから、出張、研修というところですよ、これは非常に物理的に考えて職員10人のところ、5人出張に行きたい、研修に行きたい、あるいは出張日が重なった、など学校が回らなくなるので、じゃあ、こことここは我慢して行こうとかか、あるいは残った教員で頑張ってこれはやんなきゃいけないねとかいうような状況が生まれるということですね。デメリットの方は。

湯本委員；その場合、今の先生の考えでいきますと、どのような環境が一番適切とお思いですか。

山岸委員；環境というのはこの、デメリットをどうするかということによろしいですか。

湯本委員；そうではなくて、規模と人数と教職員の数。

山岸委員；意思疎通を図れる、あるいは研修の調整が難しくなるとの、この項目だけでの数は何人だということとは申し上げられません。出来ないということです。

湯本委員；もう一点、何人ぐらいが規模ならいいとお思いですか。先生のご希望でも結構です。

山岸委員；何人というのは児童数まで含めてですか。

湯本委員；児童数と教員数、先生のお考えで結構です。

山岸委員；文科省から出されている部分も含めて考えていますと、先ほど申し上げましたように、複数の学級があれば、あるいは単級であっても今の日野小学校の状況を考えると、100人を超えていく活動というのは非常に学校が上手く回っていくというふうに思います。



会長；上原委員、何かありますか。

上原委員；今日、私どもここでお話を提供するにあたって、じゃあ、何が適正なんだと考えているか、とこういうふうに聞かれると、これはいや一困るよねっていう、今、まさににそのこのところを言われたので、それについては答申の時点で、最終的に考えていかなければならないことだと思いますけども、なかなかすぐには難しいことだと思います。今日、出させてもらった資料の1番は、実は元を作ったのは、中央教育審議会の作業部会なんです。そこは、このメリット、デメリットを作ることに結論を出しているんです。それは、12学級から18学級、小学校の場合、望ましい。という結論になるようなまとめ方をしている部分もあるかなと思うんですけど。

清水副会長；ちょっとよろしいですか、今、湯本さんの質問に関わって、それから上原先生、山岸先生のお話に関わってですけど、ちょっと具体的に話していただけると分かる点があると思うんですよ。今、湯本さんの質問に対してどういうことになっているか、さっき上原先生さらっと話されたんだけど、単級と複数学級ということで、一人の先生が欠けると、とこんなふうにして、それへの対応の仕方というのをちょっと一言お話しになって、この辺のところをクリアーに出てくるところが知りたいところ、実際学校に携わった者でないとなかなかわからない、日野小学校でひとりの先生が一週間何かのご都合で、具合悪くしたとかといった場合はどんなふうにもその学級の子どものたちの学習を保障していたのか、それから上原先生の学校では、単級が二つ、2学級以上があと4つですよ、2学級以上のところではどんなふうに対応していくんだろう、それぞれ校長先生が頭を悩まし工夫をし、そんなところの実情をちょっと話していただけると学校というもののイメージが少し捉えられるかなと思います。

会長；山岸先生の日野小で、先ほど単級という話がちらっと出たのは、先生の学級の実情かなと思ったのですが、違いますかね。

清水副会長；山岸先生の学校は全学年単級ですよ。そうすると職員数は児童数によって決まってくるわけですけど、一人の担任の先生が例えば怪我をされてしまった、というと次の先生が来るまで見つかるまでの間、例えば1週間の間というのはどういうふうに対応されるか、非常に大変だと思うんですよ。上原先生のところの2学級ある学校での対応の仕方と違ってくると思うのですが、この辺の苦しいところや、克服している点を話していただければ、学校というものの実際の中での動きの中、生きた人間が動いている、先生が動いているその姿を分かっていたらいいんじゃないかなとそんなふうに思って私、ちょっと発言させていただいたんです。

山岸委員；一人の教員が長いこと休みに入るということはまだ、今のところないですけども、例えば出張で2日間欠けるとかそういう時は、頻繁にあります。そのような時には本校単級ですので例えば、音楽専科の音楽の授業の時には音楽をやっている学級の担任が空いているわけですね、その担任が回って入る、あるいは教頭・校長が入る、そういうことで学校を回しています。

上原委員；想定の問題ですのでこういうふうに対応して考えるんですけども、単級の場合には今、おっしゃられたように、空き時間というわけではないですけども、校内で空いている先生が入れ替わり立ち替わりその学級を面倒を見ていく。ということは実は中身としては、プリント学習みたいなものが多くなるんですね。だから、担任が出張する時には、自分のいない時に6時間分のプリントを用意したりすることが多いんです。ところが、2学級以上いますと普段から合同授業のようなものを入れていきますので、それなら隣の先生と一緒に進めるよとか、体育は一緒にやるよとか、そういうことが可能になりますので、プリント学習だけではなく、普段から進度を合わせて、内容もお互い相談しながら進めていることなので、隣のクラスで使った良い教材をそのまま相互に使えるとか、一緒に授業ができるとか、ということが出来ます。その違いは大きいと思います。

柴垣委員；ちょっと報告が、山岸さんと上原さんと繋がったような意見なんですけど、とても良い報告だったと思います。感銘を受けました。まず、一番びっくりしたのは中野市では中野小と平野小以外は全て小規模校だというのが上原さんから聞いてびっくりしました。こっちも平岡は大きくて倭、長丘あたりは小さいと思っていました。最初にこの審議会が始まった時にある校長先生が私たちにとって適正規模というのはないんだと、自分たちに託された子どもたちが全員、適正で、この子どもたちをどう育てていくかを、育てているかを自分たちは考えていたと発言されたのを感銘を受けたんですけども、教育委員会とか審議会は適正規模が何人位がいいのかというその上から目線的に考えるんですけど、現場の先生たちは、先ほど山岸さんがふれたように小規模のメリット、大規模のメリット、小規模のデメリット、大規模のデメリットを考えながら託された子どもたちにどう育てていけばメリットを伸ばしデメリットとしないかを考えているんだなとあらためて思いました。適正規模が何人かというよりもむしろこういう現場の先生たちのスタンスをみんなで共有して考えていくことが大事なんじゃないかというふうに思いました。特に上原さんの方で3点を挙げられたと思うんですけども、これまでの半年間の議論を踏まえて、親や子どもたちのニーズを考える。それから同時に地域のコミュニティーとしての学校という視点から考え、3つ目の統合とかによらず、私たちには子どもたちの教育の未来図を考える仕組みがあるんだと、私も

話と議論を聞いて全く実は大事だなと思っていたので先ほど古川さんが、堂々巡りの議論をして、争点をもっと絞ってくれないといけないんだとおっしゃいましたけども、半年間一緒に議論をしてこういう共通評価みたいなものはこの審議会の中でも出てきているんだろうなと思います。以上です。

会長；ありがとうございました。

どうでしょう、皆さんぜひ発言いただきたいのですが。

北原委員；前回のグランドデザインに引き続き、大変感銘を受けました。特に日野小学校の山岸先生については、前回のグランドデザインおよび、今回のお話から、大変立派なマネジメントをされているということで、特に小規模であるが為のうまいやり方だなと、上原先生の最後のページの4番の①、小中一貫ではありますけどもここで書いてある小中の異年齢集団活動、小中の異年齢ではなく、小学校だけで山岸先生はお年寄りの方とちっちゃい子と一緒にいろんな活動をされている。これはある意味では、最近、外国なんかではそうですが、こういったやり方が少子化に伴って非常に活発になってきたのかなという気がして、感銘を受けたわけですけども、しかし、先ほど上原先生からお話があって、じゃあその小規模の小学校と大規模と学力格差、あるいは子どもの質、そういったものが違いというのはどの位出たのか、学年によってずいぶん差があると云われましたけども、概ね、小規模の学校の方が学力その他の、決して損職を受けないということでよろしいですね。もうひとつ、山岸先生のお話を聞いていて、これは長期的に見てよほど、会社でいえば、中小企業の社長と大企業の社長、これは正直言ってマネジメントの仕方が違っていて、小規模の時は山岸先生のような、大変申し訳ないですけど、優秀な方がおやりになっている時はいいですけど、未来永劫にわたってとは限らない、ですから先生のやり方によって小さい学校というのはどちらにも転ぶ、どうにもなるような危うさを感じる。ところが、大きな学校というのは、私も大企業に勤めていたものですから、社長が少々変わっても会社自体はそんなに大したことはない。中小企業は社長が代わってしまうと途端につぶれたりしてしまう。そういう意味ではやはり大変な、実際、今後とも小さい学校が、今ご説明のあったようなマネジメントをしていけるかどうかというのは長期的に見てある種の危うさを感じた次第でございます。もうひとつ問題は、どのみち、先ほど上原さんの話もありましたように中野市の教育予算というか、こういう観点でみますと前回、湯本さんのご指示で事務局の方から出ました中野市の教育費ですね、それを拝見しますとやはり、圧倒的に管理費が多いんですね。管理費というのは生徒に直接その教育に投資するのではなくて、学校を維持するため、学校という例えばメンテナンス費用だとか、これについてはいろんな費用があると思います、そういった費用が結局、相当かかってしまう。ですから少子化に向けていえることは、文科省も行ってはいますけども、先ほど

ございました少子化に伴う統合化、あるいは一貫校化ということは避けて通れない。これはどうしても長期的にみますと、必然的に発生するものである。そういった場合に、お2人からお話ございましたけども、やはり方向としてはこの委員会で、長期的に見て問題があつてそういう統合化をする、あるいは一貫校みたいなかっこうで、どういう形態がいいのか議論に発展する、そのきっかけには、今、山岸先生なり上原先生がおっしゃったメリット・デメリットあるいは一般的な学校の今後のあり方みたいなというお話ではなかったかと思います。ありがとうございました。

すいません、もう一点。

中学校で不登校が、長野県の場合、小学校は0.4%くらいですね、中学校になりますとそれが3.4%くらいですかね、これは小さな小学校と大きな小学校で差があるんでしょうか。

会長；データはありますか。

下川委員；今、おっしゃられた0.4%、3.4%よりは若干下がっていると思いますけども、それに近い数字だと思います。ただ、規模と関係があるかどうかという、特に実証したことはないのですが、規模での比較というのは、今までほとんどないので、規模にパーセントは相関はないといわれている、大規模だから多いとか、小規模だから少ないといった傾向はない、ただ、0.何パーセントというのは、人数にすると小規模と大規模でパーセントになると大きく違いますので、何とも言えないと思います。

北原委員；中学校になった時に、どんと増えるのは、もちろん年齢的な問題もございますけども、小規模と大規模の差はあるのかなと感じたものですから。先ほど上原先生がおっしゃったように、集団が大きくなるとびっくりされて中1ギャップとかありますけども、どうもついていけないということがあるのかなとちょっと考えたものですから、なければそれで結構です。

下川委員；私、中学なので、同じ中学に小さな学校から来ますけども、そういう傾向はかんじたことはないですね。

会長；中学校に入学する1年生の段階で、小規模校の子どもたちと大規模校の子どもたちとの間での差ということですよ。

小林委員；倭小学校現状を踏まえて申し上げたいと思います。

先ほどらい、先生の適正人数、児童数ということでございましたけども、現在抱えている問題としまして、現在進行形の問題としまして、先生が、私も子の通う学年もそうだったのですけども、病気で学校を休まれる、数週間休まれる、1ヶ月以上休まれ

るということは、ままあります、ありました。その時は代わりに校長先生・教頭先生が入っていただく、専科の先生が入っていただく、ということで回していただけてますが、やはり子どもたちは安定した気持ちで授業を受けられない、毎日、今日先生は来るのかな来ないのかな、逆にその先生ことを気持が離れてしまう、毎日顔を合わせればその先生に心底惚れていくのですが、本来頼れる先生がそこにいないと子どもの気持ち離れてしまう、数か月いっしょにならなくなったときには、応援の先生が来ていただくんですけども、その先生に教えていただいた時の記憶が強くて、離れることがかえって寂しい、本来の担任のことよりもそっちの先生の方が好きになってしまう、という気持ちの中で育って行って子どもたちははたしてその小学校、中学校の時代を楽しかったと思って大人になれるのかと、親とすれば心配なことであります。

私、子どもの時から同じこの小学校にいましたけども、ずっと単級で育っていました。私の子どもの時も先生が病気で半年近く不在な時がありました。その時はやはり教頭先生が入っていただいて教えていただきました、この記憶、それに対しては私なりに不満もありませんし、当時は30人くらいクラスの仲間がいました。今、私どもの子どもたちの学級は少ないところで8人、多いところで10人、全校で52人になっています。やはり他の学年との交流を踏まえながら、授業と遊び、続けていかないと成り立たない状況にあると思います。その先生のことにはやはり単級ではなくて少ない人数でもいいですけども、2学級以上、教頭さんから話がありましたけども、例えば20人の2学級が持っていただくと、一人の先生が欠けた時、要するに間違いなく40人なら目を通していただける人数かなとおもいますが。子どもたちによっては先生の好き嫌いがありまして、隣の先生がいいという子も出てくるんですが、やはり先生たちも同じ学年で2人以上いっしょにいますと、お互いに緊張、切磋琢磨してお互いのいいところを取り入れていこうと思うんですけども、単級ですと自分の教え方が正しい、これでやるんだという、現在、そういう先生がいっしょにやるんですけども、どうもそこについていけない児童もいる中で、やはり一人の先生に6学年を、6年間を教え続けていただくのはやはり、そこの先生の気持ちに飲まれてしまうのか、本来、いろんな考えの持った先生の中で育っていければいいんですけども、ひとつの考えに固執したところで教え込まれていくと、うまくいけばいいんですけども、いかに子についていけないということになってしまうと思うのです。運よく小学校でのびのびとした生活をして育って、中学へ行った、私の同級生がいますけども、その子は不登校になってしまいました。

やはり小学級の当時は17人くらいのクラスだったんですけど、中学へ行って4校が一緒になりますから、4倍近い人数のところはどうもついていけなくて不登校になってしまいました。という事例がありました。1件だけでなく数件あると聞いております。なのでやはり適正規模という観点からしますと、小規模大規模のメリット、いいところのような方向を導くような検討会であっていただけらいいなと思っています。

会長；はい、ありがとうございました。他にいかがですか。

古川委員；下川教頭、女子の体力が長野県でも30何位で、学校のクラブ活動が何か変なふうに動いているみたいなんだけど、それはどうなんですか。

下川委員；女子がですね、2、3日前に見た資料で運動部の加入率が長野県の男子が64%、全国平均が68%くらいですかね、女子が40%くらいですかね、全国平均で45、46%、本校も女子の運動部加入率が45%、部活加入率が90%ということですので、吹奏楽だとか美術だとかそういう文化系が今、女の子の主流になってきている傾向があります。

古川委員；学校は授業の中で体力を、特別なカリキュラムはやっているのか。

下川委員；いいえ、特には。

時間数は体育は2年前の教育課程のほうで周3時間に増えましたけど。

古川委員；長野県が30何位というのはいくらなんでも教育県としてどうか。

下川委員；ただし、30何位というのは、私的な意見で申し訳ないんですが、30何位と例えば5位とのポイント差というのは数%しかないんですよ、実際のところは、だから100mか50mを走った時に例えば上の順位と長野県との差が順位にすれば30何位ですけど、時間にするとほんとにわずかになるというのは統計の怖いところではあるなと思いますけども。

会長；せっかちな人がストップウォッチを押していると早くなりますから。

会長；どうでしょう、他の委員の方、今回初めて参加された方でいらっしゃいますか、ぜひご発言、ご意見をお聞かせ下さい。

中島委員；長嶺区長の中島です。地域でも、家庭と学校と地域と大きく分けて3つあると思うのですが、地域では現在、少子高齢化ということで子どもの数が減ってきております。それと年頭行事とかそういったものもだんだん縮小の傾向にあるんですよ、だから大人と子どもたちが共に手を取りあってお互いそういうふうにする活動というのは、地域の中ではだんだん少なくなっている方向にあるのではないかと思います。そういうことがちょっと心配です。それから、私の子どもの時を考えてみますと、私は壁田の分

校というところにおったのですが、その時に小学生でも学校対抗というのがありました、そういう時に大きい学校に比べまして必ず負けるんですよ、そうしたら、やっぱり勝てないんだなあと、そういう考えというかそういう意識が定着したような、ちょっとそういう感じを受けてますね。特に中学生の時は、南宮中学が非常に強かったからですね、やはりいつも常に負けるということでやっぱり、優越感を感じたいなという時期がありました。そういう面も大規模校と小さい学校と差があるんじゃないかなと感じがします。

会長；まだ、少々時間があります。いかがでしょうか。

湯本委員；私、中野マリア幼稚園の園長をしているんですが、今、幼稚園でお預かりしている人数が225名いるんですけれども、地域としては飯綱から豊野から小布施から山ノ内からも通ってきていらっしゃるお子さんもいらっしゃいます。そういう中で、今、こう公立っていいなというふうに思っちゃうんですけど、この頃、広報なかのを見た時に、平成25年度の入学児童生徒数ってのが載りましたよね、そのところで小学校が11校あるうち406人の新入について、中野小学校と先ほどの平野小学校を除くと、176人を9校で分かれていくわけですが、そうした時に、私の幼稚園は長野県に9つマリア学園があるんですけど、9園の園で今ちょうど決算時期です、この時の教育収入と人件費と教育研究費を考えた時、これだけの規模で子どもがいたんだから何とか合併とか廃園とかかってことを考えないと、やっていかれないなあとというのが切実なところですね。教育研究費を使いながら人件費の比率を下げるということは、園長にとっても大事な使命になってくるわけで、でも先生方を少なくするとやっぱり子どもたちに目がいかなくなってしまう、昔の私たちの子どもの時に育った時代の子どもの今の子どものというのは全然違うんですね、環境も違うし特別支援が必要なお子さんたちもたくさんいるし、今、年少さんは35人しかいないんですけど、当然私が幼稚園に入ったばかりの時は4人を一人で見ていたわけです。でも今、35人でも3クラスにしてなおかつ加配をつけなければならぬほど基本的な生活習慣の育ちに遅れがあるお子さんたちがいっぱいいるし、お母さん達も子育ての仕方がわからないっていう方たちが大勢いらっしゃるんですね、なおかつ年少から年中、年中から年長に行くときは全部クラス替えをします。その子の性格とか、地域とか、小学校に行く友達関係とか全部考えたうえで毎年クラスを変えて先生も変えて、いろんな人と関わって、いろんな先生と関わってみんな違うんだ、自分と仲良くできる人だけじゃなく、いやな人もいてみんな社会なんだっていうことを幼稚園の時分から知らせていかないと、小学校、中学校に行った時に社会に適用できないっていうことが本当によくわかっている関係上、やっぱり小学校もこのデメリットとメリットを見た時に、普通に考えて小規模も、そんな170人を9学校で分けているようなのが適正規模だとは私は個人的には思いません。なのでそれを何とか合併するなりしてほしいと思うんですけど、じゃあ実際のところ合併するにも土地がどうなのか、どこに学校を

作るのか、どこどこをまとめるのかって考えただけでもすぐに1年、2年の段階では  
できることではないと思うので、早めにどこどこをどうして、適正規模にしていくか  
という、そっちの方向で話していかないと、地域に必要な小学校はあるかもしれませんが  
けど、私も毎日、通勤の間に子どもと接するという機会がないです、通勤時間と子ども  
の通学時間の時間が合わないので、農家の人たちもそんなに子どもたちにいちいち声を  
かけてってというのがないので、安心の家とかそれから声をかけるとかってそういうのを  
学校のところで作っていかないとならないような地域社会になっていることを考えると、  
やっぱり子どもの育ちでたくましく生きていってもらいたいこの社会の中でっていうこ  
とを考えた時には、小中学校をもう少しまとめることがいいんじゃないかなっていうふ  
うに個人的な意見ですけど思います。

以上です。

会長；ありがとうございます。

宮入委員；大規模校の宮入ですけども、大規模校というよりもこの会は、大きい学校は分けるのか  
という問題よりも、むしろやはり適正規模は小さいところをどうするかというのが視点  
はいつているのだろうなと思います。先ほどから、学校と地域との関係とか小さいとこ  
ろでもメリット生かしてということで非常に今の学校を生かすようなそういう対策が出  
ているんですが、ただ、適正規模が今、2クラス、3クラスというひとつのクラスの観  
点が出ましたが、もっと小さいところを考えなければいけないんじゃないかなと、例え  
ば十数人いれば何とか学級は実際には出来る。ところがやっぱり一桁になってくると、  
5人6人という学級になってきた時に本当に、授業がどうなるのか、あるいはバスケッ  
トボールがどうなるのか、クラスで試合がゲームもできないんだと、それから色々な班  
編成をした時に班ができるのか、クラスの中で班対抗ができるのかという、そういうこ  
とを考えた時に、私はひとつの本当に小さい学校にはどこかに限界があるのではないか  
なということを思っていました。そう考えるとじゃあどこが適正かというとなら2クラス  
とか3クラスとかそういうものではなくて、やはりクラスの子どもたちがひとつ中であ  
る程度教育活動が成り立つのかどうかというふうに考えた時に、そこら辺にやっぱり  
限界があるのかなっていうことを思って、例えば、野沢温泉村の市川小学校が野沢温泉  
小学校と統合しましたが、市川小学校は大変地域と密接な関係があって、地域の  
協力を得ながらいい子どもたちを作っていました。私は野沢温泉中学校にいましたので、  
市川小学校の子どもたちと野沢温泉小学校の子どもたちが入学してくると、市川小学校  
の子どもたちが、とっても気持ちのいい子どもたちが入ってきます。それは事実でした。  
ただ、市川小学校には大変な苦労があって地域の方たちの協力を得てとってもいいコミ  
ュニティーを作っているんですが、なかなかそのひとつのゲームもできない、いろん  
なことがやはり、いないものはもったいないなということを思っていました。その点が



おそらく市川小学校の限界だったのかなあと、野沢温泉小学校と統合していった課程なのかなあと自分では推測しているんですけども、まあ、大規模にいてそんな余計な話を  
して申し訳ないですけども、適正規模というのはどこら辺、3学級とは文科省が全国的  
に見た部分だと思えますけども、中野市の場合には先ほどから出ている、中野小、平野  
小を除くと非常に小規模の学校が農村地域に点在していると、その中でまだまだ、そこま  
での危機意識は持っていないのかなあ、本当に市川小学校とかあるいは山ノ内の北小の  
ように一桁になってきている、一桁になってきた時に複式になってしまう、複式になっ  
てきた時に、なんとなく学年としての標準的な動きができない、それじゃあメリッ  
トを生かしてということでカバーがどのくらいできるかという点は、難しい部分があ  
るんじゃないかなと実際私は思っています。もっと小規模の学校になった場合かなあ  
というふうに思っていますけども。  
以上です。

会長；だんだん話が具体的に我々の課題に、目の前に迫っているような気がします。

北沢委員；小規模校のメリットそれから大規模校のメリット、あるいはデメリット、こうい  
ったものが出されましたけども、私も正直言って最初、小学校にいた時分校だったわけ  
です、3つの地域で分校制をしていたわけですが、1学年16人から22名、しかも複式学級、  
その結果本校と一緒にになった4年生からその時に平均的に分校育ちの児童の方が成績  
が良かった、これはずっとそういうふうに言われてきました。それは当然のことだと思  
うんですよ、2年3年で複式ですから、2年生は3年生が勉強を見てくれるわけです。  
ただそれは、学年が上に行くにしたがって平準化されたりすることがありましたが、  
ただ、そこで本校へ行った時に集団生活に慣れない、なかなか馴染めないんです、そ  
ういったことはすごく感じましたし、実際ありました。それらを踏まえていった場合に  
やはり一定の規模、なかなか何人とか何クラスとかそういった数字はなかなか出ませ  
んけども、それなりきの規模に持っていけないと社会に出た場合の集団生活そういった  
ことにはたして上手く適応していくのか、その辺を正直感じ取れるんです。それと地  
域の関係では、私の住んでいるところでは、既に小学生は一人もおられませんし、  
今後一切見込みがつかない、こういった中ではたして地域としての関わりとか  
そういったことについてどういう方向で進んでいくのか非常に不安なり、  
そういったものを感じます。

会長；はい、ありがとうございました。

太田委員；PTA活動というところでメリット・デメリットとこの一番下に載せて  
いただいたんですけども、やはり小規模校になってしまうとPTAの役員を2度3度、  
小学校の場合、6年間の間に役をやらなければならないというようなこと  
があるので、お聞き

しています。それから2度3度といわなくても、大きい学校と小さい学校でも先生方の教育活動も運動会やらなければいけないとかというのは変わらないのと同じようにPTA活動の方も総会をやってとか、あるいはPTA作業をやってとかいうところは変わらないわけでそうするとPTA数を確保するとかそういったところも、たくさんお子さんがいてたくさん家庭数があった時にはそうやって分担できるんですけど、どんどん小さくなってしまくと、例えば総務部と教養部を統合するとか、そういうふうに組織の改編をしていかないとPTA活動を維持できないということがあって、そんなふうにいるいろいろな悩まれたり、工夫をされている学校があるんだということは联合会の方で情報化する中では出されましたけども。

酒井委員；先ほどマリアの先生の方からもお話があったのですけれども、松川保育園なんですけど、0歳さんから年長さんまで、秋になるとMAXで161人くらいの予定なんですけども、小学校でいったら、中野市の公立保育園でいったら大規模かなと思うんです。一番小さいところが長丘と永田で1園33名とか、ぼつぼつ増えて35、36人、学校でいったら小規模園になるのですかね、それぞれの良さを生かしつつ、日々お預かりしなければいけないということで、学校もメリット・デメリットある中、工夫してやっていらっしゃるというのは、今日の資料1を見せていただいて、納得するところだなと思っておりますけれども、さて、このデメリットをメリットに変えていく工夫をするには規模なのかしら、とかいろんな疑問をちょっと持ちまして、最終的には子どもたちに平等に教育を保障してあげるということが目的になるんだとは考えるんですけども、どこから手をつけてどういう答申を出していくのだろうかという、私の中では悶々しているところがあるんですけども、それぞれの良さを認めつつ学校運営していかなければいけないというところで、それぞれ先生また苦勞されているなっていう思いをもっています。うちは大きい園ですので単独学年は年長だけなんですけど、今、家庭を見ても子どもたちの人数が少ないから、大きい子のことも小さい子のことも分からずに大きくなっていったらうちの子がたくさんいます、なので大きい園だけれども意識的に大きい子と小さい子が関わりをもって年齢差を感じつつ生活をさせていくということをしなければならない。小さいところは自然に大きい子と小さい子がいつも一緒にいる、お互いに認めあえる中にあるというメリットがあるわけで、学校もきっとそういうところは同じだろうなと思っているんです。なので、これからの審議会の方向がどういうふうになっていくのだろうか、私は中ではこういう資料を見せていただいてなるほどなあって考えさせていただいているところです。

会長；はい、本日の審議会の時間も5分ということで迫ってまいりました、今日、山岸委員、上原委員から貴重な資料、それから報告いただきました。審議会の目的にかなり沿った形の報告をいただいたかなと思います、そういう訳で次回以降の審議に直接かかわるいろんな問

題、指摘が、こう資料、ご発言の中にあっただけだと思います。今日のこの時間内での質疑、それから応答ではすべてクリアにはなっていませんけれども、この先審議の中でまた出てくる話題がたくさんありますので参考にさせていただこうと思っております。それで会議事項の1は、今回もう時間がないので、とりあえずこれでおしまいさせていただければと思いますけどよろしいですか。

湯本委員；ちょっとよろしいですか。

会長；短時間でお願いします。

湯本委員；今日、先生方のお話をいただいたわけですが、なから核心的な議論に入ってきたと思う訳でございますが、一番心配なのは、私、当初から心配しておりますのは、この審議会で審議して、また教育委員会で審議して、市議会で審議してなんてことになると、我々任期は2年ではありますが、また2年が過ぎて、また同じようなことを繰り返していきますと5年も6年もということになるというのが、私、心配しておるわけでございます。先ほど委員さんからもお話がありましたように、今、10人以下の学級が多くおるわけですが、先ほど、教育長、教育委員長さんの挨拶だけでございましたが、教育委員会の考え方、教育委員会の方の対応というものを次長、並びに会長さん副会長さんはどのように把握しておられるのか、今後の会議の時にお示しをいただきたいと要望いたします。

会長；ではそれを伝えていただくということでよろしいでしょうか。

審議会自体は教育委員会と独立してありますので。

この先、3年も4年も審議するつもりは全くございませんのでスピードアップ、加速していきたいと思っております。ありがとうございました。

そうしますと、本日の会議事項、その他ですが、これもなしということでよろしいですか。

はい、ありがとうございました。そうしましたら次回の審議会、第7回の予定の確認ですが、まだ日程は確定はしておりません、他にご都合をお聞きして7月の中旬を考えていますので、内容については昨年度の段階で今日の審議会の内容を踏まえてというか、関連して木島平村の小学校の関校長に来ていただいて、今日、上原先生の資料の中にもございましたが、コミュニティースクールの取り組みについて話題提供をさせていただこうと思っております。この審議会の大きな具体的な目標と直接に関わる問題とそうでない問題、いろいろ複雑に絡み合っているんだと、これは上原先生からもお話があったとおりのんですが、中野市に隣接しているんですね、近くて、長野県でも数少ない取り組みのひとつとして来年度確か本格実施ということで、昨年度、それから本年度と準備期間に入っ

て補助金も本省からおりにているようですが、今年度が最終的な準備段階で来年度スタートと聞いております。そこから話題提供をいただいて子どもたちの木島平村での様子、学校と地域の関係、それから統合、小中の一貫になるんですかね、そういう形が何が問題に出てくるのか、何が解決できるんだろうかというようなことを、その他、今、お配りした資料にはちっちゃな組織図がありますけども、長野県内でも飯山、その他の取り組みをやっている先行事例があるようです。その辺をご説明いただいて我々の審議会の趣旨に参考になる情報をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。そのうえで古川さんにご指摘いただいた本来我々がすべきことに大きく歩み出したいと思えます。

では、本日の内容は以上です、副会長にマイクを渡します。

副会長；どうも皆さんありがとうございました。ご熱心にご意見いただきありがとうございました。

これで第6回中野市小学校及び中学校適正規模等審議会を終了したいと思います。

#### 4 閉 会 (17:02)